

## 心筋 viability 評価のための多施設研究

工 藤 崇

(心臓 PET 勉強会, 京都大学医学部核医学科)

FDG PET は心筋 viability 決定のためのきわめて有効な手段である。しかし、負荷条件、解析法が多数あるため、どれがもっとも reasonable であるかについては必ずしも見解が一致しない。今回の研究では、多施設の協力の下、約 10 例の血行再建術前の患者に絶食時 FDG PET, 経口糖負荷 (1 g/kg) FDG PET および血流 PET を行い、bull's eye およびスコア化によって解析, FDG/flow mismatch, %FDG uptake の評価を行い、血行再建術後の壁運動回復のあった群とない群で比較し、viability を予測するのにどの手法が適しているかを解析した。

単変量解析では絶食時 %FDG uptake, 糖負荷 %FDG uptake, および絶食時 FDG/flow mismatch は 2 群間で有意な差を認めたが、今回の負荷条件では、糖負荷時 FDG/flow mismatch は有意な差が認められなかった。多変量解析では、糖負荷 %FDG uptake と絶食時 FDG/flow mismatch が有効な viability 予測因子であった。FDG による viability の解析は、どれかひとつの方法が優れているのではなく、絶食・糖負荷それぞれの利点を把握した上で組み合わせることで、より効果的な判断ができると考えられた。